多文化関係学会　2023 年度　第 2 回理事会
議事要旨

日時：2023 年 8 月 24 日（木）17 時～18 時 35 分
場所：zoom 開催

出席：石黒武人、伊藤明美、岡部大祐、奥西有理、笠原正秀、小林浩明、坂井二郎、猿橋順子、渋谷百代、申知元、灘光洋子、横溝環、矢元貴美、李鳳
欠席（委任状あり）：石井英里子、趙師哲、叶尤奇

*委任欠席者の報告は事前のメールによる

1. 報告事項

(1) 2023 年度第 22 回大会運営委員会（小林）

・9 月の大会開催に向けて順調に準備が進んでいる。なお、基調講演とシンポジウムは、オンラインでも参加できるような形で実施する。

・円滑な引き継ぎのため、次年度の大会運営委員会委員長との会合も実施した。

(2) 事務局（石井*）

・8 月 23 日現在の会員数については以下の通り。
正会員 194 名、学生会員 23 名、シニア会員 5 名、計 232 名

(3) 財務委員会（申）

・会員専用サイトの初期設定・管理費（約 34 万円）、サーバー・ドメイン更新費（約 9 万円）の支払いが完了した。今後の地区研究会での謝金等については必要な場合は相談をしてほしい。

(4) 地区研究会委員会

※地区研究会連絡委員会については 7 月 7 日にオンライン開催し、今後の地区研究会活動等について打ち合わせを行った。

・北海道・東北（李）：10 月 7 日（土）午後に研究会を開催予定。
北海道大学・崔碩鎭先生「戦後韓国における政治文化と政治体制－日本との比較を中心に」

- 学会として時間制限のない Zoom アカウントの購入を検討できるか
→今後、地区研究会連絡委員会等で相談。

・関東（叶）：8 月 5 日に第 1 回研究会をオンライン開催、参加者は 23 名。
東京福祉大学・内藤伊都子先生「縦断研究における困難さと可能性 」

・関西・中部（矢元）：今年度中の研究会開催を検討しているが、まだ具体的予定はなし。

・中国・四国（趙*）：11 月 11 日に研究会をオンライン開催予定。

・九州・沖縄（小林）：年次大会の企画や運営で活動しているが、大会後についても研究会開催を検討している。

(5) 学会誌編集委員会（奥西）

・第 20 巻は、投稿論文 4 件のうち 2 件は不採択。再査読となった 2 件について再査読を依頼中。

・投稿論文数が少なく掲載数も限られることが想定されるため、書評や特集寄稿等について検討したい。→書評・特集については審議事項（4）。

(6) ニューズレター委員会（坂井）

・第 44 号（年次大会特集号）案を理事宛に送付済み。重ねて大会関連の原稿執筆予定者に対し原稿・写真の準備を依頼。

(7) 学術委員会（岡部）

・第 1 回学術委員会（6 月 26 日）において、20 周年記念事業の総括および出版販促活動について、第 2 回委員会（7 月 15 日）では新企画について検討した。

・新企画として（1）研究法ワークショップのシリーズ化（第 1 弾は 2〜3 月頃に「オートエスノグラフィー」を予定）（2）新しい分野との連携・交流を積極的に探索する活動、等が挙がっている。

・20 周年記念事業で購入したワークショップ用品等を保管できる場所が学会にあるか→現時点ではないので、今後の理事会の課題とする。

(8) Web 広報委員会（横溝）

・学会宛の問い合わせや連絡への対応に関して、事務局と担当範囲について話し合い業務改善を図りたい。→今後相談の機会を作ることとする。

(9)選挙管理委員会(猿橋)

特になし。

2. 審議事項

(1) 年次大会参加補助（スカラシップ）制度の創設について（石黒/資料１）

若手研究者の大会参加を促すため、スカラシップ制度を創設したい旨の提案があった。スカラシップの規模や対象、募集、選考の方法などについて議論がなされ、それらをもとに発議者中心でより具体的な実施案を作成し再提案することとした。

(2) 『多文化関係学』在庫の扱いについて（石黒/資料２）

学会誌の在庫がインターブックスや事務局に約 1,600 冊あり、保管料も年間 66,000 円かかっている。在庫を有効活用するために学会誌バックナンバーを年次大会で大幅値引き販売や無料配布する等の方法も提案されたが、最終意思決定するにあたり、まずは現状のインターブックス社との契約内容について再確認する必要があるとの指摘から、次回理事会以降に改めて情報を示すこととし、継続審議とした。

(3) CHA 会について（岡部/資料３）

インフォーマルな形で、関心を共有する小さな「縁側」コミュニティを作る活

動提案があり、審議の結果、活動開始が了承された。

(4)学会誌第 20 巻への特集寄稿・書評原稿等について（奥西）

・大会関連の特集記事については、大会運営委員会より申請があり次第、理事会で審議する（メール）。

・書評の掲載は、原稿本数、執筆者、内容について編集委員会の判断に一任することを了承した。

＊次回（第 3 回）理事会

2023 年 10 月または 11 月開催、場所未定

以上